

# R6年能登半島地震

## 北陸学院大学の 取り組み

Vol.01

2024.1.2 - 3.31

北陸学院大学では地震発生直後から、支援物資の呼びかけを開始、教員が奥能登被災地の一次避難所に食品、水、衣類、毛布などを届けてきました。2月に入ってから、大学生、高校シャローム部生徒が中心となり、2次避難所での炊き出し支援、交流会&相談会、支援物拠点での傾聴活動、足湯ボランティアなどの活動を金沢市内の避難場所を中心に取り組みました。道路の復旧が進んだこと、宿泊拠点が確保できたことなどから、2月後半以降は輪島市、能登町、珠洲市の被災地域での活動を進めています。これまで延べ90人の大学生、生徒、教員が活動しました。

### 1 2次避難所の住民生活支援

支援物資の呼びかけ、炊き出し、交流会&相談会の開催、傾聴活動(カフェ)、足湯ボランティアなどを行いました。



### 2 被災した住宅の片付け等

金沢市内の2次避難先で生活する住民の一時帰還を兼ねたボランティアバスを運行、住民立ち会いのもと、居宅内や居宅周辺の片付けを行いました。



### 3 子ども支援活動

子どもの支援活動を行う特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンさんと連携し、輪島市門前町の小学校避難所で活動しました。



体育館で思いっきり体を動かしたり、ゲームをしたり、それぞれがやりたいことを楽しみつつ、大学生や大人が子どもの話を聴き、想いを受け止めることで、ありのままの自分を出せる場所になっているのがチャイルド・フレンドリー・スペース「みんなで遊ぼう!」です。4月以降も活動を継続し、子どもが安心して過ごし気分転換できる場所にしたいと思いました。

南結菜 (子ども教育学科4年)



地震から2か月が経過したにも関わらず、報道で見る以上の被害にショックを受けました。そんな中でも私たちボランティアを温かく迎えてくれた住民の皆さんに感謝しています。住民の皆さんの復興に貢献できるのなら、微力かもしれませんがこれからも活動に参加したいと思います。

北野倫佳 (社会学科2年)

### 4 地域コミュニティの再生に向けた支援活動

輪島市門前町道下地区で住民が手がけたバラ園の修復作業を開始しました。地震発生以前、このバラ園は地域住民の大切な場でした。地域の復興を支える重要な場としての役割を担うバラ園を住民と一緒に作っていきます。



バラ園を地域住民が心を通わせ元気になる場にしたい。Oさんご夫妻の願いに共感し、その実現に向けお手伝いできたことを光栄に思いました。かつてはここでコンサートが行われていたと伺いました。たくさんの人が音色を奏でる機会が近い将来実現できたら本当に素敵だと思います。

市谷美桜 (子ども教育学科3年)

